

小精廬日志

昭和十二年
四月以降

特別

44

1919

627

35

40

45

50

小幡二盧日記

昭和十二年 四月以降

四月十五日

晴風つよく、朝来強風を著す。坂上弘花は、
 例の巨射を受く。大谷昭徳は、出鼻の處、定食と板
 子。佐治場原徹と、未だ、鹿瀬駅在り。打保
 次郎は、木山原一徳と、送る。未だ、五時半、渡
 野亦二家。列り大谷昭徳と、臨む。夜三時

大ボ一の後補七枚の旨を覚六回を祝儀一りりた
の旨も十二時を自動通を御心注有に二年し
外高に酒飲し七時日武三すら細を整理し芋
もく入星の島米は中依天の年等三完
雪嶺妻寿祝賀合の壽祝人を奉めし日

十八日

日

時浦初初及三三方九縁佛をさるるのき文三
娘と香典と知を持せり者る朝来旅船と兼す小
室原故休と款面を郵送す余の書簡をぬりり

榑原製

新江船少利を返空燈巻是夜も澄り又也午
後款更千佳新柄返に別り佃煮を贈りて御書
後又能保を巻す

十九日

時関下中も朱志向部室より押書と款
すゝ原玉重に因之直と巻の三完の旨を
壽祝賀合の壽祝人を送す午後散葉三紙
丸じんに約と題を切す

二十五日

日

昨、新馬白山公園にて井宮氏の碑を建てる奉り有
る況まき余の持主も需りあり、同士の都合も
もよまぬ。丹兵衛平茶に春茶書道苑に考問を
受て、白山へて四民の科辞典才十二巻を記本
散策おせしを、飲してくく、出ぬ中、雨の
丹兵衛平茶は、電車一の四民書道苑も

二十六日

雨、朝未茶葉書道苑に扱すへき名家手簡覧集

榎原製

○思ひ出の形を、午後迄書き、後十日十五紙成
り、花田と敬し、来出、金三十四品と交付、三
市、未だ、人、大森茶坊、と、押書、と、需り、未
だ、午後又、茶葉作、に、没頭、漸やく、一日、命、ま、
電車、台、業、漸やく、解決、の、可、な、形、お、出、の、皆、未
詰、園、社、大、祭、の、形、行、核、十、数、台、要、か、屋、上、と、危、お、

二十七日

○雨、石橋と整理して、茶葉書道院に、空り、出、
部、と、唐、橋、の、少年、四、文、物、修、才、冊、記、本、光

日付のち二三の書裁と精ひ三編一級してゆへ、
アノ井ニグの解本スケツチ、ブワノクを讀む、坂本謹
をよむ三日交付、午後七時迄に三巻出

二十八日

昨朝未だ解を著し、小林量權も未だ、火災保
険継続の件より言量こ日本社保険部員木作太
郎未だ午後散策、日本橋弘府を遊ぶ、
ゆへ、不立甲、竹花政茂、五月一日所今の
懇話会案内刊、晩間京都の下村田太郎

榎原製

東の葉子を贈る、下打道耳の器研究ニ
熟す、と父き、織部の内器を贈る

二十九日

天長寺

昨早大徳念寺、葉書募集勸誘状刊、日本勸業
銀行へ未だ春東書道院へ未だ、長井寺へ
廻封書外、額面三紙揮毫、山田信也、
院中澤泉一、遊し耳稿、散策、妙法寺、
下駄の馬、時辰、酒飯してかへす

三十日

吹風 難波別荘より 雲岬砲台の砲臺を
別荘丹兵衛原より来たて十一時無敵砲隊の
選奉の技藝を呈し、早大の演劇物館に到り
向上合の理を合し、臨み三時物巻、邦枝完二の小
説「樋口一葉」を演じ、香島職を、鐘人君と病臥中の
新婦未全快に到り、支那く戻り来たてのとき、牛込
矢来、小宅を借り、あかき、新巻やーと、この
ろと今の人と老いー掃除を行ふ。

張原表

五月

一日

晴 桐葉砲台と兼て、麓山寺三子山陽橋名
下遊覧、七巻海園の山画冊を贈り、早大の
記者会中、寛平、福宮君と訪れ、早大の
難波別荘に、同十時、早大の
矢来より、早大の床拂いの出来、病状
あり、アーク井ニグのステッチ、ブツも、夜未
雨あり

とまふらと夏衣の在り相と所印に来る所
者多枝長伊藤下春も耳書已般日板の
先の孔而押毫を謝し来り十一時と散策白
木危く用を弁し、高橋之清の遺る辰次郎
と見え、白鳥河に乘り起程橋をたぬす、新
潟栗林とてちまも、母國子到來

十一日

此朝未始ぬと著し、中野欽次より物と贈
らる、白鳥着き、未だ、初宿の三福、酒を

美濃

七時ころ午睡一時間

十二日

此、美帝戴冠式奉行の日也、因下と候る庭園
多少の手入とあり、西村文則より来り、十一時日本橋
之散策、高島倉公也、酒飲す、午、遊、夏、中
夏、の如し、坊、あ、ぬ、の、大、進、幸、次、冬、山、難、保、と、兼、し
能、と、漢、の、余、の、寄、物、と、收、り、学、徒、流、美、作、古
ニ、振、新

十五日

晴、院別格物候、道邊祭を祈ふ、夕つき、(高)道(の)費
墨四幅、法別(の)為、出(す)坂上弘花、(年)リ、(江)射(を)施
す、乾(の)候(を)著(す)、永(田)吉(の)故(道)楓(梅)を(後)に、(低)
後(三)未(の)飲(山)勝(去)京(蓮)寺(并)真(の)資(金)募(集)入
押(毫)を(治)入、(派)し(七)還(す)、午(後)高(野)轉(朝)の(法)別
式、(此)に(又)入(入)江(女)入(の)法(式)に(臨)む、(文)三
未(と)入(来)す、

十六日

日

法原殿

微雨、氣温下り、朝来、院候と著す、(小)入(江)の(邊)に
挨拶、未(と)出(部)入(す)か、押(毫)三(枚)交(付)候
ん、(と)出(身)候(春)公(中)に、(致)し(七)物(の)五(時)驟(雨)候
り、(六)時(未)入(入)候、(移)け(る)三(念)雪(山)嶺(上)真(壽)の
祝(賀)會(に)赴(く)、(今)衆(回)入(入)

十七日

晴、朝来、院候と著す、(七)時(を)移(す)、(晚)候(の)洋(會)
節(古)ま(の)宵(を)著(す)、(と)入(入)不(倫)候、(と)午(後)候
寐(能)法(を)讀(み)、(晚)の(水)量(し)り、(七)寝(ぬ)

十八日

晴終日風涼しく、中島へ一車詣大和寺
の件并に支那山出取の件を話して去る、数葉
の石の印帳冊名を、ゆし、晴里後山へ菊池
寛の天誅但義を語ら、アリキヤ終日雨極
理す、松江東洋味と死し、甲州岩屋山下乃木信
軍侍傳、建設の祀すを後あ、石好下、
之

十九日

晴、早稲田中島の、決り并に、社員の、の、
初、姻草新法を、安志を、需め、直を
不滅の火、一程と、草を、安志、午後光の付
目白まを、自動を、一、乗合、乗、換板
橋区、豊を、この、河川、橋、侯子、訪、
々、この、像の、見、下、村、の、
縁、下、涼しい、心、下、
重、下、
大、下、
能、下、

ルを元、古城の城跡と見せ圍ふと出づ、偶々
今自動車一の停車して待つを仕合とてまゝに
乗り、日白器より自動車一を借りし所名の
高の果物店板屋に麦酒を飲けし所、府
税不税の徴票刊の六月廿の納付

二十日

晴風、朝未難航を景、一時を移す。大段任友園
西信託、赤林儀、身ゆ、牙堂の海老と終る
随者、三程を焼く、海礼、文の、既、風敷と、微

而到、洞、乗、心、強、強、法、を、強、む、相、其、義、は
高、ま、了、神、風、節、台、通、ら、ゆ、ま、有、

二十一日

微雨、君、本、早、中、校、長、校、務、に、つ、き、来、談、余、日、校、名
登、社、員、と、す、。而、手、後、漸、中、志、中、も、亦、少、な、公
堂、に、領、主、ゆ、宅、後、控、取、と、考、え、る、旅、分、節、
無、事、功、の、物、差、意、寂、後、う、じ、え、の、河、井、堂、後、の
役、の、行、者、の、訓、法、と、す、

二十二日

と曉路を過る。朝未始を著し。早大子
務不も急報あり。市原の電報に觸る。七
重傷を以て急に折すと。五来欣送と未亡午
後一時演劇場始。赴き道途祭に臨む。嗟哉
四念。今津原等と。余も急に折ると。
午時の急。山成部と。印税の急。落田銀送より
未亡

二十三日

日

東京

朝未始を著し。朝未始を著し。早大子
武三子。店と掃除。落田銀送と。新刊録
庭百を。急に折ると。十時出。落田銀送と。三福と。拍
と。歸心。酒飯と。急に折ると。森奈夫と。急に折ると。
と。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。

二十四日

而。五来。素川。未始。向。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。
急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。
急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。急に折ると。

印の先が式に臨む(号典十回終る) 雜記を著す
早中... 未也

二十五日

園下二人集り

頃、森島大薩田鎮造に油状を寄る(山田信之
耳、十時少し前、劇、震あり、狂歌と著す
去、信之仙覺打山秋海の消息到り、丸曇り西
洋、由吉本辰院令を允、有、此、處、否、と、問、
七、袖、へ、の、命、あ、千、春、も、ハ、夕、も、終、り、果、之、午、後
突、如、田、中、光、顯、伯、母、幼、池、華、三、冊、を、贈、呈、す

雜記

二十六日

時、初来雜記を著す、後、田、又、敬、母、り、自、著、
日、不、思、子、之、言、侍、も、終、る、淡、天、一、時、向、り、
あ、之、園、下、二、人、又、又、四、寶、佛、像、を、焼、き、
井上、本、太、中、に、も、来、也、而、昨、を、未、也、伊、孫、千、春、
お、也、を、投、す、石、蓮、子、の、像、を、燒、き、時、を、終、す、秋、滿、
今、并、藤、田、鎮、造、に、も、未、也、之、後、秋、滿、
業、

二十七日

雨予の空の好をぬのち難儀者道「比振別石里
況市の好も後ひ坂口獻夫耳流乙家寺の
件あり子舟美原平より来也真崎中大夫
も伊市の供物を贈り来り午後廿頃出の時を
移す新好南谷も加法米一俵別来も海軍
新隊記念也

二十八日

雨朝未始ぬを兼す、月書家用金亦有日預金
引出す中時道市田回之故に赴き園寺鐘塚の

理り今に始ぬ不立中武田尾夫再訪、後四
頁故より来也直崎、海軍を兼す、夜下田
中村好房(星湖)来伝不遇、真崎、香を郵送
日本郵船配る去分拾五圓銀也

二十九日

雨朝未石里子の信を讀み畢り、救米所
者に物を贈り三福に酒を以て物も、高島次左
も来、筒山うらむを贈り来り、午後三宅、雪嶺
の人の折込をも後ひ

三十日

日

而收氣温低下、因丁二人来り、別府青村山秋
海をもり、あの日生命保険も分配金十七回
四十八支別来り、町内の御輿、新浦代金の内五丁
寄附金四回、湯む、新浦に三福を訪る、酒を
し、物も後、後之と時と移り、早稲田中、
社、火舎の、湯を、来り、あ、八重、
来り、雪、炭の、人の、行路と、清む。

三十一日

素原

晴、園丁二人来り、朝来り、雪、炭の、人の、行路と、
清む、新浦の、寝具、成り、午後、新浦と、散策
不立中、名、洋、島、平、来り、北、上、之、急、の、飛、入、り、解
散を、取、り、し、伝、達、者、の、統、果、政、府、の、利、也、と、知
政、民、兩、堂、の、聯、合、治、理、を、伝、達、し、知、事、に、伝、達、し、
辭、と、し、る、金、子、馬、沈、傳、士、急、死、の、報、到、の
夜、来、雨

六月

一日

雨十部合葬：無嶋一と未書。余の授符を物
以に施法、師出關東、六月節、梅新、十八日大日本印
例分此株、主徳合の通暎、振興、早大、厚生、研究、合
し、廿五周年紀念祭、と寄る、早後、敷、東
紀、生、物、を、贈、り、之、切、り、年、後、函、書、を、但、閑、の、大、令
色、澤、公、に、下、り

二日

時、園、丁、二、人、来、り、西、村、又、刺、身、流、名、作、葉、
平、一、身、流、乙、齋、寺、每、星、土、の、時、瑜、伽、志、如
丹、其、原、平、河、内、本、七、郎、時、田、勉、未、流、作
最、澄、身、を、物、を、贈、り、

三日

晴、九、時、半、来、り、山、南、場、に、赴、き、筆、子、坊、士、の、葬
儀、に、臨、出、金、十、圓、香、奠、を、齋、寺、に、奉、り、式、終、り、同、所
に、塚、谷、集、會、の、時、乙、齋、寺、の、件、と、協、議、又、山
本、の、三、七、の、日、の、訃、列、の、山、田、通、志、に、十、七、日、日、比

芳次中へし未也。

雨 二日 日

磯宮鷲印も海ア、じふ載二鉢貯る。
中村將為馬場未月三十日日本女子学院の校友
今二一泊の法話を清元と説き、西原長原保の
道遠の考據と持て来り、是道をも物ふと、押
元毛、亦法金三の、既て来り押毫を二宮に
十時止本堂三長男の葬儀に臨む、香典十圓
幣帛、向電後揮毫、金子母子禮二来る。

坂崎垣を以て其佛堂西冷画の研死并回縁
を之のまゝ、午時江右の三福に飯を

七日

所、扇子十笏押毫花也目録も終る、館茶
平、糍も終る、未、高森と三の、信編
長、月、副子と材料と徹し、未、才一紙の
預金の、三十五圓と小切手、りて引出し得る
預金と、未、十時、雨ふ、坂垣、坂垣
に湖也も、費す、教知死馬若、何月、

板の紙上二一冊の地筆を清入送す丹兵衛
平馬流

八日

雨、西原を原とて海に引く、新井御川大宮徳院
但合置地高常松福重へ地方事務官進出する
出、海軍の川逆流防止水門並閘門の工
要工事完成に多二十五年、式を奉付也
〜閘門の傍に治水紀念碑を建設す
〜き余に撰文と程、毫を需の未、西中

藤原敷

散策紀行の傍見、ゆる、朝おしき、夕暮、初
〜き、池草のあそとまの、五時紅葉飯の睦合
〜臨む、松天、田中、井上、望月、増田、出、奉、立
川、宿、心、多、タリ、十、寄、七、月、也、

九日

雨、中座一冊、教訓、新、夕、二、案、す、念、根、へ、心、ぎ
全、代、由、不、二、交、付、午、後、散、策、三、紙、に、於、け、る、紙、に
展、覧、會、を、入、す、晚、間、時、田、勉、集、法、物、を、贈、す
口、野、の、贈、物、を、對、し、此、人、乙、村、の、医、生、海、を、真、

此奥二の字也

十日

快晴、平浮金三斗、押巻を交付、十四日金子塔
士二七口より遠旅より大隈合破に松さる、竹花
政茂井上物二、大橋、雑紙を著し、早大出
取部より山利書配本、庄司浅水より集
子別集、午後故集日本第一二二日用を著し、何
未の雑紙を著す

藤原製

十一日

晴、庄司浅水より未書、山伏大正史後所需左
近衛前公壽の思ひ出、三命を主行、市山徳
房、枝西筒、杉井柳川忠雄の件、入つぎ
打合をもち、名元夏司、庄司浅水に二投簡
款夏、茶を種い、資生堂に飲し、浅水、観音を
賽し、由久、剛成、成し、其の法本に余の地、孝平
今の文を編製せんことと、宗の集、秋博、今、茶
東京報日、未書

十二日

頃、近衛東山公の遺徳一命の故、大正史記令
の施行、空ろま、早大の國際学研究所
のつき、空の所、金勸、讀書、刊、乙、寶、瑜、伽、志、の
の、出、刊、の、敷、策、新、書、の、三、福、の、故、の、由、途、而
の、通、の、由、電、報、社、の、と、著、す、の、新、河、南、谷、の、白、米
一、徳、を、ま、し、り、来、る、

十三日

日

頃、相来新編と著す、午後本河久雄、耳、防、機

藤原数

茶の山陽待懐の題画、近景の信文、空、上、巻、を、記
の、南、方、の、と、遺、著、の、山、陽、政、堂、取、と、其、の、新、河、南、森
の、夕、錦、の、小、文、江、の、及、北、の、品、列、来、丹、美、原、平
の、来、原、三、三、未、亡、人、形、見、り、品、を、持、来、

十四日

頃、相来新編と著す、早大の國已、板、の、印刷、和
漢書目録、信記、部、新、来、敷、策、高、橋、の、合、巻、の
の、飲、生、の、来、又、雅、録、と、著、す、の、金、子、馬、次
の、二、七、〇、の、下、り、遺、故、の、根、か、ん、大、隈、合、巻、の、合、巻、の、臨

衣冠司成より押書を乞ふ事あり。

二十五日

明、藤田の故郷より、中野の洋の死を伝ふ、宗家より
川崎井柳川但念の志、数利未、改上弘治元年
小洲の注射を施し、作る未、四方志の書、皇國
日本を治ふる、新治の校なるより、舟長仁一と未
出、難治を華し、時を移す、菊比容、二十一年
紀念の事あり、十二の聖典の書あり、刊行。

藤原敷

二十六日

明、朝未、新井御川、治天、温華史を讀み、紀念碑の
文を撰ぶ、冬、舟長仁一の、投石を扱ひ、燭臺、旗
紙、旗部、朝未、角谷、妻、此夜上、桑、今、朝、行、り、り
舟を擡ぐ、舟長仁一、舟長仁一、舟長仁一、舟長仁一、三
福、二、飯、す、角、谷、妻、三、次、二、次、也、も、舟、長、仁、一、今、夜、山、田
湯、生、に、招、か、れ、日、比、谷、の、陶、を、喜、ぶ、又、夜、舟、の、舟、長、仁、一
愛、く、勝、侯、鈴、言、郎、を、近、著、其、文、日、本、原、物、大
ケ、以、て、贈、る、薩、田、鏡、道、と、舟、長、仁、一、也。

時田勉と未出、勝俣銓吉中、海士と見たり本
大島正一、筒井大吹、親戚、玉崎、近江、洋の
二のき、舟、船物と好む、田村社、二即、其、功、文、の
協、今、の、三、十、年、紀、念、有、業、を、終、り、有、原、町、舟、唄
今、二、十、七、年、迄、は、と、未、出、午、時、敷、屋、の、電、の、途、次
米、其、を、臨、り、し、入、国、切、り、朝、の、下、割、早、く、利、き、に
り、也、苗、比、容、省、の、陣、別、合、に、容、省、十、六、日、漢、度、業、字、し
一、編、出、海、西、村、文、別、り、手、交、二、宮、二、奉、り、祝、問、雷、等
り、強、而、利、り、

榎原製

舟、其、原、平、二、投、過、今、朝、の、勢、多、後、の、松、平、秋、壽
伯、貴、族、院、議、長、と、内、官、と、報、り、休、木、侯、副、藩、長、宇
尾、中、澤、系、良、の、出、久、も、系、良、漢、を、更、り、未、出、難、問
と、著、す、正、午、迄、一、天、晦、冥、路、を、到、り、新、井
川、流、水、沿、道、一、丈、と、讀、み、大、要、を、録、す、其、日
川、流、水、紀、功、碑、撰、文、を、混、す、り、一、二、三、番、件、を
抄、り、寫、家、守、務、所、へ、申、送、り、大、日、本、印、本、
姫、配、南、八、分、予、の、名、義、株、に、給、り、六、百、三、十、五、圓、
内、予、分、百、五、十、圓、餘、也、

陣列の支分法に研墨を、祝、休養位乳：謝状を
かり、小柴卯七と申す且利本果を贈、三ふ六

二十二日

修、内子に^月相実家用三ふ六日交付内八十二回府税
市税死、市税芳治中、多、年若未徳浪士を寄せ
未、之、殿、言、不、所、望、の、响、し、候、者、を、廻、り、内、毛、形、而
角谷、冷、倉、庫、と、送、り、心、留、め、子、も、申、出、し、寄、銀
の、未、徳、浪、士、と、請、出、す

二十二日

所、小柴卯七市税芳治の、：謝状を、寄、り、申、出、す、中、河
小柴、根、本、廣、田、依、次、の、一、多、金、八、割、是、毛、の、額、而、に
所、謝、状、到、り、未、徳、浪、士、と、請、出、す、時、を、終、り、和
田、菊、吉、未、立、文、未、治、三、上、冬、次、危、馬、と、申、す

二十四日

所、山、田、海、代、月、持、積、物、本、二、配、本、二、官、受、法
多、未、出、花、集、三、山、利、志、を、贈、り、人、の、名、を、知、り、申、出、す
住、友、路、り、又、寄、り、申、出、す、同、行、款、金、帳、尾、四、百

二田二六也。報紅地偏舞。とと来也。牧舎の隨
草。草木志を讀む。宗家をも。江井川碑。とて
使事。

二十五日

晴井上朝二井上辰九中。とと来也。牧舎の隨事。
草木志を讀む。宗家の。江井川碑。とて。使事。
庄五。土田秀太郎。とと来也。午後讀書。
時を移す。

榎原製

二十六日

晴朝来雜報を讀む。金。十四日。八。とと来也。
草木志を讀む。宗家の。江井川碑。とて。使事。
庄五。土田秀太郎。とと来也。午後讀書。
時を移す。

二十七日

晴亦久江真雄。とと来也。牧舎の隨事。

の松と雪根の幅を賜ふ、松根を著し、理髪を
司波丸、同去、色代十枚押、是、午後風起り
漸やく雨を催す、改上、夕急、謝儀、五十四、冬、角
谷、三、次、より、吟、花、序、と、婿、り、夕、出、列、り、也
又、今、案、在、田、取、以、二、男、病、氣、の、為、也、案、し、也

二十八日

雨、山、田、内、心、取、以、為、田、注、董、の、地、事、を、候、也、左
司、波、丸、の、押、是、を、交、付、二、書、其、法、を、以、出、也
二、冬、五、中、尾、中、深、取、候、午、後、散、策、歩、也

藤原

を、訪、ふ、物、を、新、給、を、奉、り、改、上、弘、前、を、奉、り、奉、出、也
中、田、家、用、の、子、を、交、付

二十九日

雨、亦、一、程、の、積、雪、二、三、日、引、出、す、内、山、浦、三、を
奉、出、候、村、保、次、の、物、を、賜、り、奉、り、奉、出、也
其、物、有、り、と、曰、奉、候、節、に、二、三、師、人、を、送、り、也
を、候、也、其、時、色、代、を、候、也、候、也、候、也、候、也、候、也
奉、り、奉、上、今、相、現、有、補、欠、の、事、を、又、同、候、也
其、時、是、節、迄、約、八、百、日、内、二、三、日、候、也、其、也

三十日

兩余の投信「市慶」の一半を載せしむ載せしむ
二極利、銀未雜紙を著す又敷紙相毫成る
武田上しよき茶酒を貯る未、午後而を衛七日
本藩に回ると賄ふをゆるす家々々官紙を
身物を報くまゝ早大も新出法旅者六十
八日銀を、城境のソ軍、吾軍の為め砲艦一撃
沈一丈破境一遊迎の報、うじすを伝へる

榎原

七月

一日

兩金三万五千圓預金引出す早大出政部
中えりし二万圓貯る二宮基次を未商
光の付と、旅行用品を雑々金三萬圓先交
付、二万圓内子、貯けり、二十五日銀幣、
す、西川一孝喜子の爪流生活と後、市慶下年
とぬめり報知新々、極利。

二日

曇今頼丸の子先子新河出立也。余の叔父近衛
家山公通縁をぬりて能法以法大正親史法三橋
着、口内先子余の孫今通知利、市島徳子
宗礼と身訪、叔父知信と来也。村山秋浦の爲
三年、垣内通通の出家物三點、是爲朝。終
記者余先侯夫大隈侯百年終りて身訪七夜
十時三十分上座書上院縁をて新河入會と
赴く、一行去江登松山本忠具二橋士也

三日

今、幸比山宿と得々、寺田野と川上法
局村中甲申、乗り込、新河舟を新河
校及四五の出迎を受け、七時三十分新河着
多敷の枝支出中、篠田施成着、後直中
中、中、新河到、中、橋脚七先着の支回者
人等、今、一、行の三人と法天時を移し、一
時、新河分をへり、余、今、臨、中、東
是着の先子五十分、伯母も訪問、四、時、中、
家角、是、七、三、次と法、入、難、中、と、中、五、時、中、行
形、中、利、大、今、の、中、中、中、余、早、大、の、中、中、

此の一場の決戦をうし宴に入、今更なる百名
余亦撰抄決戦を多し、例の如く献酬、亡殺さ
九十時漸中、所をも詔假、仰り休矣、先五十為
らるゆゑ。

四日

日

此、今日大なる起き一場の決戦をうし、強ゆる、
新井御川を巡覽し、即ち御所の途に就く、強ゆる
の文字、大將宗家、未だつとき、攝付の為め
滞在を由義、く、七日、帰京と決す、一二の端

書を、東原、あふ、高島、江を、身訪、坪、西、吉、也
楊の、北、原、と、治、の、真、此、の、死、傷、大、決、戦、の、先
主、健、あ、を、去、る、ふ、原、の、二、宮、交、治、と、電、流、を、交、換、す
系、と、作、り、木、収、心、身、治、也、二、刀、工、屋、林、也
の、事、も、詔、と、あ、る、十、一、時、校、友、有、五、三、松、也
鉛、筆、を、用、ひ、利、の、鉛、筆、を、用、ひ、今、日、改、染、
す、ま、る、午、暮、後、山、本、を、江、の、人、物、集、の、途
に、就、く、余、の、自、動、車、を、能、力、を、取、原、に、到、り
先、が、宇、尾、也、と、治、の、二、宮、交、治、外、二、三、氏
訪、ひ、未、だ、小、憩、の、後、北、原、の、お、お、校、友、三、山、也

尾崎の謝帖を寄せし年三午後六時宇垣大
將江島を甲斐入り来り隨行三人を携て之は
日本古年協定記より六回義勇の秘書をも大
將の世習也余の大將に今する始り也大將如
才よく人に接し人として情威を受くし小憩
の後福治鴻也坊をも合て宗家も定後の川
と小艇三艘を載て蘆葦の河を行
く十数下りをも過て出づ湖海のことし
日漸やく没せんと暮景極り舟を停
めて麦酒を飲け魚をぬすむく等河を
行

藤原製

ありし小艇も漁す亦一時也。徒ら笑ひ終
る就き晩飯の席に就き午後八時を過く大將よ
く飲む本旨七十二才予より四歳若き未合るん
と云ふ。壯健余の酒量大將に敵する能はず。碎後
支を此し一睡天の利也。

七日

昨今朝一泊八時宇垣一行新居に向て去る。余人
の為り手書函紙短冊等々相寄る。美人文喜も
多時泣く午後別を告げ秋の月未更の月夜

●投先と自動車も取寄を越く天王寺河へ停
車せし故也。香積園三つえしと未だ物と終
る。五時ハシカルハハリ三十分今もと取上。着未
車中無所を感し合をこ入り及酒を飲く
八時十分上院に着立し不帰宅。家人報ず
冊共揃平。病み父出京病院へ入ると去り也。
五回中穂積の女の卦に指す。赤糸庵中
件純亨と未だ富山着る。と。万社辞典別
巻一冊東院書局より中村先生の法則
獨行も寄ると見ふ。九時三十分母来訪

八日

●西院市永格とら。と。山陽孤録の附を老
いし澤宅とむと。余の巻割す。心書のみき。雷信
と申送。又。南谷と三。次。う。反。物。を。野。う。未。み。小。舟
笠。三。つ。も。白。洞。利。夫。ハ。田。中。穂。積。と。中。村。と。也。也。
山田の心耳接。午後向。上。合。の。証。文。と。不。久
唐。一。と。報。す。大。加。一。印。其。込。大。浪。志。侯。地。也。
親。息。曼。陀。羅。考。出。版。成。り。等。と。一。部。を。終。り
二。送。田。久。部。に。向。す。新。法。政。に。献。書。と。す。其。出
龍吟社の草村相権と。と。キ。リ。ン。ビ。一。お。刊

申午後雜記を著す

九日

晴、高田より新井、先田付島、高田、丹兵衛、
土佐の物を買ひ、高田三福と飯、土佐の物、
高田三福と飯、土佐の物、高田三福と飯、
三日支那軍、完全、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
甲州、新井、高田、中田、土佐、高田、新井、
四方、死傷多しと云ふ、午後雜記を著す、二
時頃、北風あり、三時、雷鳴あり、雨を催し、未だ夜、

藤原製

入り、晴雨一過、炎熱解消

十日

晴、朝来強風を著す、久吹者三と云ふ物を買ひ、
高田、市山、新井、高田、中田、土佐、高田、
未だ十日を過ぎ、河津、高田、向土佐、高田、
一、未だ油印あり、河津、高田、近若、現代、
近若、高田、高田、上土佐、高田、中田、
高田、高田、高田、高田、高田、高田、
高田、高田、高田、高田、高田、高田、

能本大賀一印協士の大隈家外親然曼陀羅考
を讀む所得稅其他の徵符列る。庭末石

十一日

日

今朝の夕多紙は日支開戦區と報す。支那側は西
申合をいへるを守る。不誠意を憚り返し遂に全
面的衝突に激し、以て陸軍、海軍、海軍を激し
と傷め、或は之を蔣公不の莫察を煽動して日本と
戦ひし。其の莫察の敗北に乗じて蔣公は已が
手は莫察をぬめんとす。獨善人らと、森田美

榎原製

桐丹吳長日返罷三と未出。夕多紙は二報
す。香月中將回用元行校を現地急行、才三
融隊全支配傳に到ると、中元の贈りお勢多の
夜に入り政府軍大敵の中外に劣す。武進外
一人朝来芝を刈り庭園を掃除、景に新を起す
外、夕多紙も滿燒をいふ。

十二日

今朝の夕多紙は日支事及の記に滿鐵戦の氣
も漲り、新右を行き、夕多紙の地景を新洲歌

海を越へ又クケナレの蓋靴を纏う三福：飯も物も
京都下村西大らり大智法師の精舎曼陀羅院を
賜ふ。其命辰之の迄書を撰む

十三日

晴相来難報と著す。河舟如後と果てまの
清山喜代四身、丹兵衛宗元と梅子病狀を
未出中元贈品類と別と余の後法を叙め
東洋趣味刊の四竹之先と付と散葉報誌
の休業：酒飲して物、府税市税定に程微

張原製

雲刊

十四日

雨後晴、高き山三の山、舟戸の人深作、久次、烈
公の傳後の一より及射燈の直達と跋り、東郷元
評の伝公款字と刻見と、紀文と余、清山乃
題文と心つて、飯、雑報と著し、傳んが物
ち、伝公心を、飯、切、字、尾、海、ま
也、次日便密、困、し、女、も、下、副、を、取、す、字、尾、金
二、投、問、異、術、日、報、社、を、想、意、と、案、の、耳、

十五日

此押書を美術の叢書に寄交、西村文則、来也、土田秀太郎、投函、協平病状の全冊、其原所、平玉状と書、宗家の継志園より、其原所、長柄洋武男、出状と書、飛渡、出記、友長、河一、妻多壯、一、山陽、詩、懐、日、鑑、定、と、海、の、と、書、其、全、地、一、と、洋、果、と、送、付、表、入

十六日

榎原製

此、初、末、旅、状、と、書、す、西、村、文、則、投、函、宇、尾、聖、徳、と、書、す、先、と、付、を、テ、ハ、ト、と、協、平、の、合、物、と、精、心、先、を、又、あ、り、や、る。午、後、亦、旅、状、と、書、す、酒、状、の、鑑、の、き、再、も、西、村、文、則、投、函、報、知、形、多、也、と、寄、付、湖、全、二、十、四、冊、神、奈、の、群、馬、二、鉢、と、書、交、り、致、意、す、大

十七日

此、旅、状、と、書、す、西、村、文、則、と、書、交、り、寄、交、す、先、を、付、の、形、多、也、と、書、交、り、伊、勢、丹、名、本、に、寄、交、す、物、を、寄、付、す、是、れ、馬、物、の、鑑、書、を、送、付、す、此、初、末、

時、至三十一日、大下、全集(一日一書上)を、
七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

二十一日

時、丹兵衛、原久、中、心、制、主、政、東、往、来、小、
寺、福、と、需、の、来、日、新、報、と、名、中、と、時、を、移、る、丹、兵、
衛、と、沈、黙、せ、し、む

榎原製

と、金、の、中、心、制、主、政、東、往、来、小、
寺、福、と、需、の、来、日、新、報、と、名、中、と、時、を、移、る、丹、兵、
衛、と、沈、黙、せ、し、む

二十二日

時、朝、来、能、報、を、最、末、秋、清、の、色、と、お、と、沈、黙、
せ、し、む、長、回、秋、清、と、稱、す、既、福、
と、寺、尾、元、彦、と、稱、す、既、福、と、稱、す、
と、

しと新井御川治久紀功碑の形を寫す

二十一

敬告の

明治の部外報より支那側電化修繕を如何に
我々が敬告(即ち二柱)と報す、以井御川治
久碑の形を繪す、山田信代氏訪種志、今
本配本千坂碑文稿洋書土田表より一先
送、ハロイ、ホル、山崎坂、早稲、米、
日本勸業協会より、配告、金剛、東京
市役所より、昭和十二年、石、石、改良費

藤原製

七十二面三十三(八)月十日、昭和(一)の徴、栗判
の、大木まき、五月、五十島、旅、會、新、油、一、福、判
未、危、目、由

二十七

雨、今、胡、本、時、地、空、多、了、又、又、社、の、法、本、の、余、の、池
葉、中、の、今、の、一、面、を、攝、探、究、こ、と、と、雷、志、流、す
中、村、星、湖、の、州、日、大、法、會、館、に、日、本、女、子、學、院、の、奉
養、令、を、(子、く、つ、き、余、の、出、席、)を、求、め、来、り、又、敬、告、
千、住、を、祈、り、の、お、を、辨、心、小、望、安、子、と、又、又、難、波

到来しつゝ重坪の書信に加筆を求めたり。亦久
一からいふ所刊の大下りる下り金采を定むる事
東京の二書を整理しつゝ余の遺書を徴し来り。箱は
到事迄簡を投す。東京の二書あり。

二十八日

明、朝来東京の二書投す。く隨筆執筆二篇
成る。東京の二書は二書の高橋の館を求め来
り。恭書書道院に送る。字の好むを求め。午後
又一稿成る。小林儀に送る。奈良法を定むる事あり。

藤原製

午後中日の書信あり。

二十九日

明、朝来東京の二書投す。く隨筆執筆二篇
成る。東京の二書は二書の高橋の館を求め来
り。恭書書道院に送る。字の好むを求め。午後
又一稿成る。小林儀に送る。奈良法を定むる事あり。

をさうす、色か不也。此蓮も之は月三平時、其の采
木と味増一得別表

三十日

の次天皇祭

頃丹兵衛平に協平の病状七報す、神楽日二平
身流、美刺書を刊行のつき余も或る部分と接
あせるとゆふ、栗林母子平流、新右と滋行と是れ
紀神と雖ひ三福三浦とゆふ能知を著す、其病
み歎這もその千言と施す、通あに於ける日本入る
教の節、ふ出づ

